

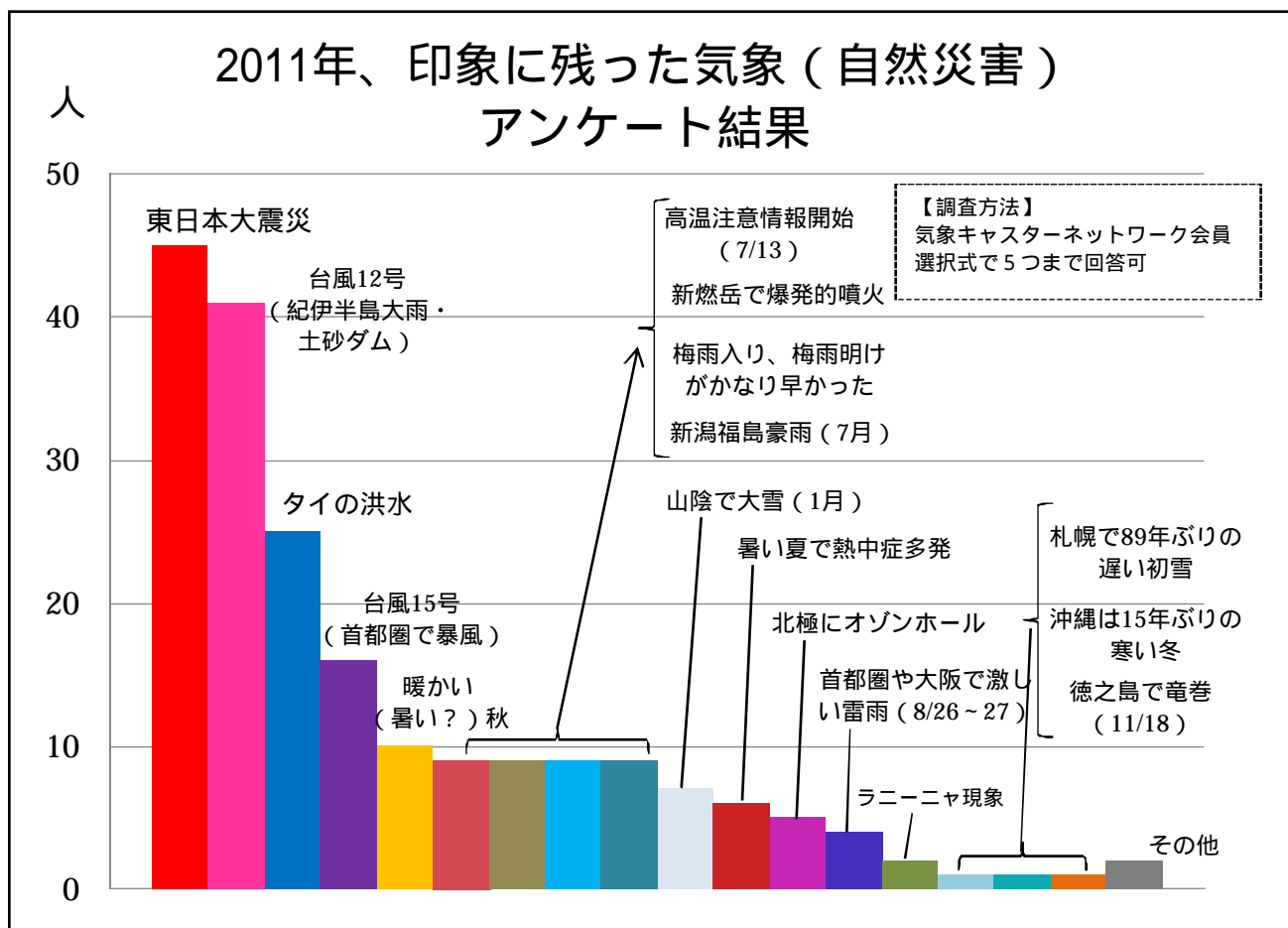
今年の自然災害 重大ニュース 印象に残った気象（自然災害）アンケート結果

2011年12月13日

NPO法人気象キャスターネットワーク

NPO法人気象キャスターネットワークでは、気象キャスターや気象予報士らの会員を対象に2011年に印象に残った気象（自然災害）のアンケートを行いました。事務局が用意した選択肢から最大5つまで選ぶ選択式で、45名から回答を得ました。

回答者全員が選んだのが「東日本大震災」でした。東北地方太平洋沖地震によって発生した大津波は未曾有の大災害に、防災情報に携わる者として強い衝撃を受けた人が多かったようです。次に多かったのが台風12号。紀伊半島に1800ミリを超える大雨を降らせ、土砂災害や洪水の被害をもたらしました。土砂ダムという言葉もよく使われました。このほか、日本の企業が大きな被害を受けた「タイの洪水」、首都圏で帰宅困難者が多発した「台風15号」が上位に入りました。その他は住んでいる地域によって印象に残ったことが違ったようでした。全体として言えることは、今年は津波や大雨など、水に関係する災害が多かったのではないのでしょうか。今年の漢字は「絆」が選ばれましたが、気象関係者にとっては「水」の災害が印象に残った年だったように思います。



【会員のコメント】

今年は特に台風による被害の甚大さが印象に残っています。私が気象業務にかかわってから初めて土砂ダムへの警戒などもありました。台風12号があれほど動かなかったということが驚きでした。

今年は、東日本大震災が必ずトップの話題となるが、地球温暖化による影響の特徴である気象現象の顕著化が現われた一年だったと思います。

「季節外れの～」というコメントを使うことが、非常に多くなってきた気がします。

台風12号の襲来の際は、気象情報を伝える任務に非常に責任を感じながらやっていました。しかしながら予報を伝える傍ら、どんどんと被害の情報がもたらされ、天災の前に無力感も味わいました。被災した映像を目の当たりにし、強く印象に残る災害となりました。

東日本大震災は言わずもがなです。台風15号は上陸通過の見通しは予測通りでしたが、東海道新幹線の復旧が予想より大幅に遅く、家族が影響を受けたからです。

自然の猛威を前にして、社会のシステム、人の生き方や価値観を考えさせた。

暖かい秋は冷え性の私にとって嬉しいことなので印象に残らなかった。言われてみればという程度。

やはり未曾有の参事となった東日本大震災が一番印象に残ってます。これを機に人の意識や社会がいろいろ変わり、3月11日よりも前ってどんなだったろうと思うほどです。台風12号。前代未聞の大雨に、なにが起こるのかわからず、ただただ、繰り返し注意を促したため。

今年はとにかく水難が多い都市でした。番組でも台風や大雨の本記ネタが多くて忙しかった思いがします。しかも、ほとんどが月曜日！日曜日に休めない夏でした。

やはり一番印象深いのは東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）です。この地震によって人生そのものが変わってしまった人が他の災害に比べ突出しているように思います。地震研究も今後進んでいくことを願うと共に、津波についても私達は色々対策を講じていかなければならないはずです。

「タイの洪水」日本にはない、大きな川の洪水について考えさせてくれた。